

# 看護教育に携帯電話を活用した参画支援ソフトウェア “ECILS”によるeラーニングの試案

吾郷美奈恵・石橋 照子・梶谷みゆき  
阪本 功・飯塚 雄一・金築 利博・山下 一也  
柳瀬 正宏\*・関口 滋行\*・松尾 俊亮\*・赤木 豊\*

## 概 要

看護教育において、株式会社エネックスが開発した携帯電話を利用した参画支援ソフトウェア“ECILS”を活用するシステムを試案した。“ECILS”の機能は①リアルタイムアンケート集計、②メッセージコミュニケーション、③出席管理、④簡易理解度測定（小テスト）、⑤課題提出、⑥連絡網、⑦メッセージ検索である。

“ECILS”をうまく活用することで、学生の学習意欲の向上が期待でき、参画力が身に付くことが推察される。携帯電話による利便性から情報管理や情報活用の広がりがあり、教員の授業支援と教育力向上に寄与するシステムでもある。

キーワード：看護教育、参画支援ソフトウェア、eラーニング、携帯電話

## I. はじめに

我が国は、IT基盤を活かした社会経済システムの積極的な変革のため2001年「e-japan戦略」、2003年「e-japan戦略II」で先導的取り組みを推し進めた。現在は、2010年に「ユビキタス社会」の実現を目指す「ユビキタスネット・ジャパン」政策へと進んでいる（総務省、2006）。「平成18年通信利用動向調査報告書」によると、携帯電話・PHSを保有する世帯の割合は86.8%で、携帯電話の利用率は20～29歳が最も高く95.4%である（総務省、2007）。また、我々の教育対象である学生においては、ほぼ全員が携帯電話を保有している現状にある。また、学生への連絡は学内に設備されているパソコンのメールに比べて携帯メールの方が早く確実に応答があることを日々感じている。

我々は看護教育において講義（石橋、2006）（梶谷、2006）（松本、2006）や実習（石橋、2006）、授業評価（吾郷、2006）でラベルワークを用いて参画型看護教育を試みてきた。紙ラ

\*株式会社エネックス

ベルを用いているため、手書き文字の読みにくさ、ラベルの管理、情報（学び）の共有、データ化した情報の後利用などには限界があり、多くの課題がある。ラベルワークにより参画型看護教育として効果を示すには、手書きラベルをコンピュータに入力することが必要である。そのためには、労力と時間を要し、学びをタイムリーに還元できないもどかしさがある。

また、高等教育における法人化や少子化の影響など急速な環境変化の中で、大学の生き残りをはかる有力な手段としてeラーニングが注目されている（日本イーラーニングコンソシアム、2006）。最近では携帯電話に代表される携帯端末の技術革新と普及により、学習に利用される機会も増え、eラーニングの一形態としてモバイルラーニングなどと呼ばれている（日本イーラーニングコンソシアム・2006）。また、携帯電話やPHSなどのモバイル端末からのインターネット利用者数がパーソナルコンピュータからのインターネット利用者数を上回り、2005年末時点の調査で逆転した（総務省、2006）。

今回我々は、株式会社エネックスが開発した携帯電話を利用した参画支援ソフトウェア“ECILS”を活用し、モバイルラーニングの看